

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	59	学校名	静岡県立横須賀高等学校	校長名	河西 伸之
------	----	-----	-------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

小笠・掛川地域に根差し、地域に密着した高校として、少人数指導で個性を伸ばし、主体的・実践的な教育を通して、地域に貢献し、地域の将来を担う人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の適性を知り、自分で考えて行動したり周囲に援助を求めたりして、目標実現のために努力できる人 ・持続可能な社会の担い手として地域に貢献する人 ・コミュニケーション能力を身につけ、他者と協働し主体的に行動することができる人 ・敬愛と感謝の念を持ち、社会との共生ができる人 ・好きなことに熱中する誠実な姿勢が誰からも愛される人 ・常識的な判断と高い人権意識で家族を大切にする人 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通性と多様性のバランスがとれたシティズンシップ教育を推進します ・進路や適性に応じた情報提供、自ら選択する機会を増やす、個を尊重した指導を行います ・ICTを効果的に活用し、主体的・対話的な学習を促進することにより、コミュニケーション能力を伸ばし、学びに向かう力を育てます ・課題を把握し、迅速且つ計画的な解決に向け行動できる力を伸ばします ・地域企業・自治体等との密接な連携により、体験的・探究的な学びを充実させます 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情をコントロールし、授業を大切にできる生徒 ・部活動、生徒会活動、行事等、高校生活の目標を明確にし、意欲的に取り組もうとする生徒 ・差別やいじめを許さず、多様性を認め合って、明朗なコミュニケーションができる生徒 ・時間とルールを守り、落ち着いた生活ができる生徒

(2)スクール・ポリシー具現化の柱

ア 【学びに向かう力の涵養】

安心安全な環境下で、授業を大切にする学校風土を育むと共に、中上位層のやる気伸長を達成するための工夫
イ【豊かな心の育成】

生徒指導提要に即したガイダンスとカウンセリングによる心理的安全性を確保し、ユニバーサルデザインの授業と環境整備を堅持することにより、自己肯定感享受による適切な人間関係の確立、ルールの遵守と高い人権感覚を有する感性を育成する

ウ【安心・安全の確立】

地域、PTA、学校運営協議会との伴走により、人権教育、道徳教育と生活・交通・防犯の安全確立及び自他の命を大切にする教育を推進するとともに、生徒による防災組織を再構築する

エ【多様な生徒への対応】

社会人基礎力の習得による希望進路実現に向けた個別最適な学びの実践、インクルーシブ教育に向けた特別な配慮を必要とする生徒への支援強化、共通性と多様性のバランスのとれたシティズンシップ教育

オ【地域との連携・協働】

学校運営協議会の円滑な運営と役割分担の明確化により地域の課題解決や魅力発信、信頼される学校づくりを推進する

カ【自己有用感の育成】

失敗を励まし、期待を表現し続ける指導により、生徒のプライド、気概、粘りの意識醸成に向けた体験的な活動を重視し、部活動、特別活動、学校行事の一層の活性化を図ることで、生徒の居場所を確保する

キ【今日的課題への対応】

ICT活用指導力向上、地域人材と産業・伝統文化の理解と学校や生徒個人の課題解決に向けた探究的な活動、生徒指導提要に基づいた生徒支援、働き方改革の推進、適正な会計処理と労務管理、チーム横須賀(職員のOODA ループ=報連相チーム協同)推進、学年主任を中心とした学年経営

様式第1号

3 本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・ I C T 機器の効果的な活用 ・ 学習歴の保存意識向上 ・ A L (アクティブラーニング) 等の学習形態の工夫によるコミュニケーション能力の育成	・ 授業で日常的に I C T を活用する職員 75%以上 ・ 「ノートや端末、ワークシートへの学習歴保存」生徒 75% ・ 1 単元 1 回以上 A L を実践	教務研修 全教科 全教科
	義務教育段階での学習内容の確実な定着	・ ユニバーサルデザインの授業、教室環境作りの徹底 ・ 充実した朝学習と振り返り可能な教材の活用	・ 教室整備、板書、プリント、I C T 、提示等の工夫を意識して行っている職員 100% ・ 年度当初に立てた朝学習の目標を達成した生徒 75%以上	全教科 教務研修 図書広報
	中上位層の学力伸張	・ 「授業に出席する=やる気が出る」と「授業が成り立つ環境作り=目標作り」さらに「楽しい授業=わかる授業」の実践 ・ B Y O D による個別最適な学びの提供 ・ スモールステップで目標を持たせ達成感を持たせる学習指導	・ 「授業がわかる」生徒 75%以上 ・ 1 時間の授業や授業のまとまりとしての単元の学びに目標をもって取り組んでいる生徒 75%以上 ・ 端末を活用して毎日自ら学ぶ時間を確保する生徒 75%以上 ・ 授業の中で小テスト等実施による短期間・小範囲での学び実施 100%	全職員 教務研修
イ	基本的生活習慣の確立	・ 体調管理意識向上 ・ B Y O D 端末の学習ソフトやアプリの利用率をあげる ・ 規則正しい生活と清潔感ある身だしなみの意識 ・ 教育相談の充実による希求力醸成	・ 保護者と体調の情報共有ができる生徒 75% ・ 課題等期限内提出生徒 75% ・ 校内私物整理と身だしなみ意識 75% ・ 思いや考えを適切に表現するよう心掛ける生徒 100% ・ 各学期中に、授業担当の全生徒に声かけした教員 100%	教務研修 進路 各学年 生徒保健
	高い規範意識の育成	・ シティズンシップ教育の推進 ・ 授業規律の確立 ・ 発達支持的生徒指導の重視	・ 気持ちの良い返事と笑顔を意識している生徒 75%以上 ・ 時間とルールの遵守重視生徒 75% ・ 相談できる教員がいる生徒 100%	生徒保健 各学年 全教科 全職員
	情操の育成	・ 図書室活用推進及び読書習慣の確立につなげる指導 ・ 読む、書く、伝える活動充実 ・ 清潔感を意識した生活を送る ・ 生徒の居場所作りについて地域関係組織と協議を開始する	・ 図書館を利用した生徒 75% ・ 図書だより発行年間 3 回以上 ・ 弁論大会一人一作品製作発表 ・ 人権を意識した授業と指導実施 100% ・ 清潔感のある身だしなみの生徒 75% ・ 学校近隣の空き家の利活用（借用）について地域と協議し、生徒の居場所として活用する	図書広報 全職員 生徒保健
ウ	校内安全 (学校保健、学校体育、生徒指導)	・ グッドマナー横高の推進 ・ 発達支持的生徒指導によるいじめや触法行為の未然防止 ・ 体力向上、健康の保持増進 ・ 生徒主体の校則等検討会実施	・ 挨拶をする生徒 100%、教職員 100% ・ 人権に関する職員研修年間 2 回以上 ・ 生徒への健康管理に関する情報提供件数年間 12 回 ・ 生徒会活動満足度 75%以上	生徒保健 保健室 保体科 全職員
	交通安全	・ 自転車走行マナーの向上 ・ 交通安全意識の醸成	・ 保護者、地域、教員による交通安全指導年間 3 回以上実施 ・ 重大な交通事故 0 件	生徒保健
	防災安全	・ 防災教育推進による地域ぐる	・ 学期 1 回以上防災訓練を実施する	総務

様式第1号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		みの防災意識高揚 ・生徒の防災意識向上	・自衛隊、地域中学生と合同防災訓練を実施する ・生徒による防災組織を検討する	学運協 生徒会
	命を大切にする教育	・人権・道徳教育の推進 ・生徒指導提要に則った生徒指導の充実	・生徒対象の人権・道徳等の講座を複数回開催する ・生徒に対する適切な言葉遣いを意識した職員 100%	生徒保健全職員
	危機管理	・コンプライアンス研修実施 ・非常時の組織体系構築 ・施設設備の安全点検実施 ・地域とともにある避難所拠点としての整備	・教職員の不祥事0件 ・危機管理マニュアルの改訂、周知 ・一斉安全点検年3回以上 ・地域の避難所として防災対策の内容を再検討する	管理職 総務事務室
エ	希望する進路の自己実現	・職業人講話、インターンシップ等による職業観の醸成 ・P T A、地域人材の面接指導 ・進路内定時期から逆算した1,2年生のキャリアアップにつながる実践の充実	・将来や夢、校内キャリア経験について発表することができる生徒 75%以上 ・面接指導等を通じて、P T A、地域人材との連携を深める ・生徒の進路指導満足度 75% ・進路関連講話、インターンシップの1、2年生満足度 75%	進路学年
	多様な生徒の支援及び特別支援教育の充実	・特別支援教育に係る研修充実 ・生徒の多様性に配慮した個別支援の充実と社会人基礎力醸成（ケース会議による組織的支援、外部機関、専門家との連携）	・特別支援教育の知識やスキルを支援に活用した職員 75%以上 ・横須賀手帳の有効活用率 75% ・新入生S S T講座年間3回以上実施 ・ユニバーサルデザインの授業実施教員 100%	生徒保健全学年 特別支援コーディネーター 全職員
オ	地域に根ざした学校	・保幼小中の交流 ・学校H P、S N S、ポスター等による情報発信の強化 ・部活動等による地域貢献 ・地域行事や地域連携事業へ協力参加する生徒増加	・異年齢と積極的に交流した生徒 100% ・本校の様子週1回以上発信 ・一部活動一ボランティア実施 100% ・地域行事や地域連携事業への協力参加生徒 50%以上	学年 総務 図書広報 全部活動 全職員
	地域との連携・協働	・地域人材・資源の活用 ・学校運営協議会との協働 ・総探とL H Rでの郷土愛育成によるシティズンシップ教育 ・「行きたい学校作り推進事業」等による“横高レガシー”の確立と新たな学校作りの推進	・地域人材の講演や行事参加2回以上 ・地域との協働またはS D G s推進にかかわった職員 75% ・将来は地元で地域貢献したいと考える生徒 75%以上 ・地域の文化、産業、人材に关心が持てた生徒 75%	学校評価委員会 全職員 教務研修 進路 全学年
カ	部活動と学校行事の一層の活性化	・部活動任意加入による新たな放課後の目標設定をし、前向きに取り組む生徒の育成 ・生徒主体の行事運営 ・部活動無所属生徒の自己肯定感充実場面創出	・目標を持って生活した生徒 100% ・学校行事に積極的に参加している生徒 100% ・「自分は大切にされている」生徒 100%	生徒保健部顧問 行事委員 教育相談
キ	I C T活用指導力の向上	・I C T機器の有効な活用 ・I C T機器の活用に向けた生徒B Y O D端末活用教材開発	・I C Tを有効活用する職員 75%以上 ・朝学習や短縮日課時にB Y O D端末を利用した生徒 50%	教務研修 全教科
	働き方改革に対	・学年経営の充実	・学校生活における共通理解と情報共	教務研修

様式第1号

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
する組織的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の協働性の向上 ・時間外勤務時間削減の徹底 ・支援員採用による業務整理 ・心理的安全性の担保 ・業務整理の推進 ・部活動統廃合と外部指導員等の計画的配置 ・長期休業中の自己研鑽等充実 	<p>有の機会としての学年集会年間10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終退庁時間午後8時遵守する ・部活動所属自由化による新内規完成 ・時間外勤務月45h超者の面談100% ・支援員への業務委託教員75% ・業務分担整理による協働意識100% ・職員室の談話室スペースの活用推進を図る ・部活動の外部指導員等の積極的活用 ・長期休業中の補習等を学期内に完了 	管理職 全職員 安衛委会 生徒保健